

えよ風



Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

- 突然死を防ぐ治療 ～植込み型除細動器～
- 当院における周産期診療について
- プレスト・アウェアネス ご存知ですか?
- 健やかな骨を保つには?
- 手術や急な入院でも安心を 血糖管理・サポートします!
- 医学生の外来診療参加型実習について
- 診療科紹介 呼吸器外科
- 認定看護師・専門看護師の活動について
- 感染症の豆知識～耐性菌～



突然死を防ぐ治療

～植込み型除細動器～

現在、日本では心臓突然死を起こす方が年間7.9万人おられ、およそ7分に1人が心臓突然死で命を落としていることとなります。その原因の多くは心室細動・心室頻拍と呼ばれる致死的不整脈です。致死的不整脈になると心臓は痙攣(けいれん)してしまい、血液を送り出せなくなります。そして数秒で意識を失い、数分で脳をはじめとした全身の細胞が死んでいき、死に至ります。致死的不整脈からの救命には電気ショックが必要です。私たちが診ている心臓病の患者さんの中には、実際に致死的不整脈を起こした方や、今後起こす可能性の高い方が多くおられます。そういった方の突然死を防ぐ心臓植込みデバイスとして、「植込み型除細動器」があります。これは体内に埋め込まれ、24時間365日、患者さんの心臓を見守り、もし致死的不整脈が起こった場合には、ペースングや電気ショックを行い、命を救ってくれる機械です。植込み型除細動器には、心臓の中にリード線を入れるものや、皮下にリード線を植込むものなど、様々なものがあります。当院では患者さんの病状に合わせて最適な機器を提案させていただいています。

(循環器内科 吉山 智貴 福田 大受)

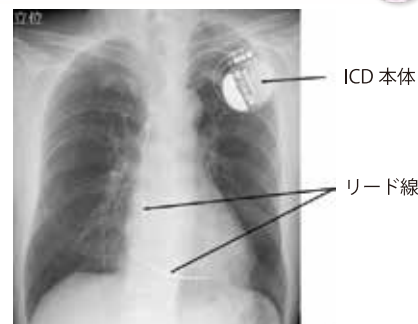


図1 ICD 植込み後のレントゲン写真



図2 皮下植込み型除細動器

当院における 周産期診療について



小さな命と大きな絆

当院は地域周産期センターとして、MFICU3床とNICU9床を併設し、地域からの紹介や母体搬送を積極的に受け入れています。MFICUとは、Mはお母さん(Maternal)、Fはお腹の中の赤ちゃん(Fetal)を表しており、ICU(集中治療室)を付け加えている通り、多胎妊娠・前置胎盤・胎児発育不全・妊娠高血圧症などハイリスク合併症妊娠や分娩時大量出血、産科救急疾患など、母体・胎児に治療が必要な場合や、注意深く診る必要がある場合に入院して頂く病棟です。あらゆる母体搬送に対して、小児科、麻酔科、救急救命科をはじめ、院内全ての診療科と協力して24時間体制で対応しています。当院では合併症のない正常分娩も多く取り扱っています。妊娠・分娩の経過には、突然発生するトラブルも少なくありません。いざという時でも迅速な対応が可能ですので、安心して分娩に臨んでいただけます。当院での分娩をご希望される場合は、ご遠慮なく女性診療科(産科)へご相談下さい。

(女性診療科(産科) 三枚 卓也)

ブレスト・アウェアネスという言葉をご存知ですか？

2020年の女性のがん死亡数は157,396人であり、このうち乳がんの死亡数は14,650人でした。

乳がんの罹患率は第1位(2019年)、死亡数は第4位(2020年)で、9人に1人が乳がんにかかると言われていています。つまり対岸の火事ではないのです。しかし、罹患率が1位であっても、死亡率が第4位と言うことは早期発見すればするほど乳がんを命を落とすことは限りなく抑えられるのではないかと思います。

そこで、皆さんに知っていただきたい言葉が“ブレスト・アウェアネス”です。ブレスト・アウェアネスとは「乳房を意識する生活習慣」です。

チェックポイントがあり『①自分の乳房の状態を知る②乳房の変化に気をつける③変化に気づいたらすぐ医師に相談する④40歳になったら2年に一回乳がん健診を受ける』の4つです。

乳房の状態をチェックする時は、着替えるとき、シャワーや入浴時に石鹸の泡がついているときに見て触ってみましょう。しこりはないか、皮膚が凹んでいないか、赤くなっていないか、下着が汚れていないかなど変化がないか気をくばりましょう。そして何か気がいたら医師に相談して下さい。また、健診を受けた際「要精査」という結果を受け取った場合には、怖がらず恥ずかしがらずに医師へ相談して下さい。

日常生活の中に、4つのポイントを取り入れ生活習慣とすることで自然に意識高め女子へと変身出来るのではないのでしょうか？日頃から顔を見るように自分の乳房の状態を知ることによって早い段階で異常に気づけるのではないのでしょうか？

お気軽に取り入れてみて下さい。そして何かあればお声がけください。当院乳腺外科医はみなさんのそばにいます。

(乳腺外科 荻澤 佳奈)

自身でチェックしましょう



健やかな骨を保つには？

いま我が国では高齢化が進み、骨粗鬆症のリスクにさらされている方が増加しています。2000年に開催されたアメリカ国立衛生研究所のコンセンサス会議において、骨粗鬆症は『骨強度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる骨格疾患』と定義されました。骨の強度の7割は骨密度で説明できますが、残りの3割は骨質であるとされています。骨質とは、骨の微細構造や代謝のスピード等、骨密度で測定できない骨強度の指標です。

骨折を予防するには、骨に重要なカルシウム、ビタミンD、ビタミンK等の摂取が重要です。カルシウムは牛乳やヨーグルト等の乳製品、ビタミンDは魚やキノコ類、ビタミンKは納豆や緑色野菜に多く含まれています。また、日光浴も皮膚でのビタミンDの合成に寄与します。

転倒を契機に骨折することも多く、転倒予防は重要です。そして、転倒予防には筋力強化やバランス運動が重要となります。ビタミンDの摂取も転倒防止に役立ちます。食事と運動に留意した規則正しい生活は、生活習慣病のみならず骨粗鬆症にも大事ですね。

(骨・内分泌内科 准教授 今西 康雄)

SUPPORT



手術や急な入院でもご安心を
血糖管理、サポートします！

現在、日本で糖尿病患者さんは約1,000万人、その予備群もほぼ同数おられるといわれています。がんや感染症などの病気にかかると、糖尿病で治療中の方だけでなく、もともと糖尿病でなかった方でも血糖値が上昇することがあります。また他の病気の治療薬によって、まれに糖尿病を発症することもあります。血糖値が高いと手術後の合併症やさまざまな感染症が起こりやすくなるため、治療中の良好な血糖管理は病気の改善や早期の退院にとっても重要です。

DCT (Diabetes Control/Care Team, 糖尿病コントロール/ケアチーム) は、当院で手術、抗がん剤治療、ステロイド治療などをうける入院患者さんの血糖管理をサポートする糖尿病診療専門チームとして平成30年1月から活動し、年間約800名の入院患者さんの血糖管理を担当しています。長く糖尿病治療をされてきた方、また今回初めて血糖値の異常を指摘された方も、主治医の先生からのご依頼に応じて、退院後安定されるまでの安心・安全な血糖管理をサポートさせていただきます。



2022年度 DCT メンバー

(生活習慣病・糖尿病センター 山崎 祐子)

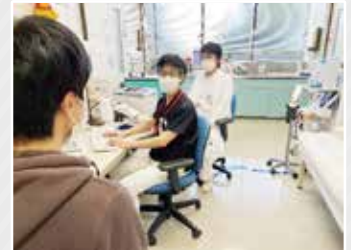


医学生の外來診療参加型実習について

Practice

医学生は、臨床実習を始める前に全国統一のCBT (Computer Based Testing) とOSCE (Objective Structured Clinical Examination) と呼ばれる医師として必要な知識・技能・態度面を評価する共用試験を受験しています。この試験の合格をもってスチューデント・ドクターの資格が与えられ、指導医とともに診療チームの一員として臨床の現場に参加できるようになります。

医学生は見学だけではなく、患者さんの診療に医師と一緒に参加することで、高い教育的効果が上がります。特に、患者さんと良好なコミュニケーションを築き、適切に医療面接を行うことが重要であり、当院では外來診療参加型実習を行っています。指導医は常に患者さんの診療状況を把握しながら、医学生の実習を行っております。患者さんのご理解・ご協力なしには、未来の良医は育まれません。ぜひとも実習へのご協力をお願いいたします。



実習中の医学生とともに

(総合診療科・総合医学教育学 福本 一夫)

シリーズ 第21回 

～認定看護師・専門看護師の活動について～

当院では、専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。



NICU (新生児集中治療室) について

NICUでは早産により小さく生まれた赤ちゃんや、何らかの病気をもって生まれた赤ちゃんを集中的に管理し治療・看護を行っています。私たちは治療だけでなく、障害なき成育のための成長・発達を促す個別的なケアや親子関係の形成を育むためのケアを実践しています。また、必要に応じて地域での適切なサポートが受けられるよう多職種とも協働しています。

コロナ禍での愛着支援

NICUでは、免疫力の低い赤ちゃんを新型コロナウイルス感染症から守るため、厳しい面会制限を設けています。しかし、それでは生まれたばかりの赤ちゃんのご家族との関係を築くことは困難です。そのため、NICUではリモート面会や窓越し面会、ご家族との面談を実施し、またメッセージ付きの写真や動画撮影を行い、親子の愛着形成が図れるよう支援しています。(看護部 主任 岩崎 初美)



NICU 内の様子

認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
専門看護師とは、公益社団法人日本看護協会の専門看護師認定審査に合格し、ある特定の専門看護分野において、卓越した看護実践能力を有することを認められた者をいいます。
※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用 認定看護師: <https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn> 専門看護師: <https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns>

シリーズ 診療科紹介 呼吸器外科

呼吸器外科では原発性肺がんを中心に年間300件以上の手術を行っています。患者さんに合わせた適切な手術を提供します。進行肺がんには手術に抗がん剤や放射線治療を組み合わせ治す手術を目指します。早期肺がんには根治性に加えて低侵襲性を追求します。ロボット手術は究極の低侵襲手術です。最新式の手術支援ロボット(da Vinci Xi)を使用し、約1cmの小さな傷5箇所ですべて手術を行います。適応疾患は肺悪性腫瘍(原発性肺がん、転移性肺がん)に対する肺葉及び区域切除、縦隔腫瘍、重症筋無力症に対する胸腺切除です。これまでに100例以上のロボット手術を行っており、ほとんどの患者さんが術後1週間以内に退院されています。ロボット手術について、いつでもご相談ください。



呼吸器外科スタッフ

(呼吸器外科 月岡 卓馬)

感染症の豆知識

シリーズ3回目

耐性菌

3回シリーズ「感染症の豆知識」の最終回は、耐性菌についてです。耐性菌とは抗菌薬が効かない細菌の総称で、図1に示すような耐性菌が近年問題となっています。2050年には1年間に1000万人が耐性菌で死亡するとの衝撃的な推定が報告されました。抗菌薬は、一般に「抗生剤」や「抗生物質」とも呼ばれ、細菌による感染症を治療するための薬です。COVID-19やインフルエンザの原因は細菌ではなくウイルスなので、抗菌薬が効きません。ほとんどの風邪はウイルスによるものですので、抗菌薬が効かないにもかかわらず、これまで「念のため」という理由で多く使用されてきました。このような使用は不適正ということになります。抗菌薬を使用する限り、耐性菌の出現はやむを得ないことですが、風邪などへの不必要な抗菌薬の使用を控えることで、耐性菌出現のリスクは軽減されます。もちろん、使用するべき時にはしっかり使うということも重要で、そのような使用を適正使用と呼びます。これまで、薬剤耐性菌対策や抗菌薬適正使用をよりわかりやすく伝える一環として、小中学生のセミナーやイベントを開催してきました。その中で、簡単なゲームの開発もしてきました(図2)。少し難しい内容もありますが、1回数分程度ですので是非試してみてください。これができるようになれば、医学部の3年生並みです。

それでは、3回にわたる連載を終了いたします。ありがとうございました。(医学研究科 細菌学 金子 幸弘)

図1



耐性菌番付

現在、問題となっている耐性菌をグラム染色という方法で青赤に色分けしました。

MRSA	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	CRE	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌
VRE	バンコマイシン耐性腸球菌	CPE	カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌

図2



Baikins War (バイキンズ・ウォー)

病気を起こしている細菌を倒すゲームです。

QRコードを読むか、URLを直接入力すればどなたでも自由にプレイすることができます。



<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/bacteriology/b-online/kansenshow/baikinswar/>

発行 / 大阪公立大学医学部附属病院

所在地: 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
電話: (06) 6645-2121 (代表)

<https://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

初診受付時間: 午前8時45分～午前10時30分
休診日: 土・日・祝日、12月29日～1月3日